



所蔵資料紹介 ～大型本から～

『富嶽三十六景』(葛飾北斎筆,共同通信社,1970年)より

皆さん初夢は何を見ましたか？おめでたい夢として「一富士二鷹三なすび」と言われますが、そう都合よく見たい夢は見られませんか。そこで今回は初夢の中でも最も縁起の良い富士山を、葛飾北斎の浮世絵を中心にをご紹介します。

北斎は90年ほどの生涯で「富嶽百景」「北斎漫画」など3万点もの作品を残したと言われ、ヨーロッパをはじめ海外の芸術家にも大きな影響を与えました。展示している「富嶽三十六景」は場所、季節、天候によって移りかわる富士山の表情を捉えており、さらに人々の営みが生き生きと描かれているところが長く広く愛される所以ではないでしょうか。特に有名な「神奈川沖浪裏」(かながわおきなみうら)は、大波に揉まれる小舟の一瞬を切り取った作品です。激しい波とその背景に静かに佇む富士山、藍と白という対比が絶妙なこの作品は「グレート・ウェーブ」または「ビッグ・ウェーブ」の名で世界中に知られており、「凱風快晴」(がいふうかいせい)、「山下白雨」(さんかはくう)とともに「三役(さんやく)」と呼ばれる代表作です。

他にも「東海道江尻田子の浦略図」(とうかいどうえじりたごのうらりやくず)、「甲州三坂水面」(こうしゅうみさかすいめん)を展示しています。「田子の浦」は現在の駿河湾沿岸で歌枕にもなっています。万葉集の「田子の浦ゆ うち出でてみれば ま白にそ 富士の高嶺に 雪は降りける」(山部赤人・318)の歌が有名ですね。「甲州三坂水面」では山梨県にある富士五湖の河口湖に投影する「逆さ富士」を描いています。千円札の裏面にも逆さ富士が描かれていますが、こちらは同じ富士五湖の本栖湖に映った富士山です。「三坂」というのは「御坂(峠)」のことで、御坂峠から見た富士山についてはぜひ太宰治の「富嶽百景」を読んでみて下さい。高校の教科書で読んだことのある人もいるのでは？峠にある天下茶屋に滞在した時の様子・心情が繊細な文章で書かれ、「富士には、月見草がよく似合ふ」と書き残しています。

文学や芸術に数多く描かれてきた富士山は、美しさと雄大さを併せ持ち信仰の対象としても存在してきました。皆さんは「富士山」と聞いた時、どんな姿を思い浮かべますか？図書館で見つけてみてはいかがでしょうか。

参考文献:

- ・『鳩居堂の日本のしきたり豆知識』鳩居堂監修,2013年
- ・『北斎原寸美術館 100% Hokusai!』[葛飾北斎画],小学館,2016年
- ・『北斎 I・II』(浮世絵名作選集 13・14)鈴木重三,岡畏三郎[著],山田書院,1967年
- ・『萬葉集 1』(新日本古典文学大系 1)佐竹昭広[ほか]校注,岩波書店,1999年
- ・『太宰治全集 第2巻』太宰治著,筑摩書房,1967年
- ・すみだ北斎美術館 <https://hokusai-museum.jp/>



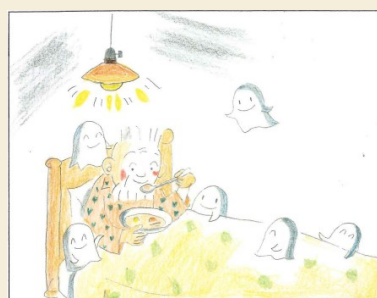
「甲州三坂水面」には不思議な点がいくつかあります。ヒントは湖面に投影された富士山には雪がありますが、実際の方は…？直接見て確かめてください。

学生からのおすすめ図書の紹介 ～幼児保育学科(1年生)編②～



レオ=レオニ作;谷川俊太郎訳
『ひとあしひとあし:
なんでもはかれるしゃくとりむしのはなし』
(請求記号:ヒ 登録番号:00062997)

「スイミー」が有名なレオ・レオニの作品です。こちらも、小さなしゃくとりむしが、鳥たちに食べられそうになりながらも、コマドリのしっぽ、フラミンゴの首などの長さを測っていつて難を逃れていきます。最後に「歌を測って」と言われたしゃくとり虫はどうなるのか。特徴的な色彩とシンプルなストーリーに引き込まれていきます。(押阪達夫)



にしかわおさむ/作・絵
『おじいさんと10びきのおぼけ』
(1月末に入る予定です)

私たち大人は「おぼけはこわいもの」という先入観があると思います。その先入観は子どもたちの自由な想像力を無くしてしまいます。この本はかわいいおぼけがおじいさんと仲良く協力し合うお話です。小さなおぼけがおじいさん一人のために一生懸命たすけようとする。そんなとっても心が温まる絵本だと思います。(吉村花和)



キムスヒョン/著・吉川南/訳
『私は私のままで生きることにした』
(請求記号:159キム 登録番号:00063307)

この本は、私が中学校の朝学活の時間に読む本を選んでいたら出会いました。他人にとらわれたり、他人と比べたりせずみんなそれぞれの生き方や価値観があり自分を大切に愛することの大切さがわかる本です。「すべての人に理解されようとしなくていい」という一文があります。生きづらい世の中でみんなに理解されよう、認めてもらおうと必死に行動していた私に刺さった一文です。この本の言葉に救われる人が沢山いるでしょう。(藤原麻帆)